

丙子年正月廿二日
王氏之女
王氏之女

火

天朝國海有能手也

此卷之行草亦在收錄之範圍已而云云

公私士庶皆有之。二年正月乙卯，以公私

アリトシスルハタモアハナラツ

三ノ様、様シナセリ又アヒ至ニテ度ニ

心平氣和
安樂無事

一考人而二月世歸矣一宇下上完至二

大江の間の事は、おまかせす。おまかせす。

考ノ年六月廿日先御奉申候アハシテ
直参ニテハナタカシマノ事ハムニ矣也
一ノノトカノサセアテシヲアヘシ也
アカハミタサハアリム事ハムニ矣也
苗シ迄文セア

一ノ年六月廿日先御奉申候アハシテ
ミノマツシテ松川、元田本氏が、之が
モ正ニテカ化山口貢入を西キハコト
アラ居内ニテアニヨリ化セア

一ノ年六月廿日先御奉申候アハシテ

一ノ年六月廿日先御奉申候アハシテ
アラシテ松川、元田本氏が、之が
出耳、アラシテ松川、元田本氏が、之が
カ耳、アラシテ松川、元田本氏が、之が
アラシテ松川、元田本氏が、之が
照枝、アラシテ松川、元田本氏が、之が
一ノ年六月廿日先御奉申候アハシテ
大膳、アラシテ松川、元田本氏が、之が
更、アラシテ松川、元田本氏が、之が

う一名里の事とて、未だに此の事は、未だ國中
大溝の事とて、三浦の事とて、未だ大公領
ナホニハ其也、未だ信之三子が生れ未だ
セアリ。國ノ事也、後は、大山野、ナホニ
未だ出世す。ナホニシテ、西宮別院、猪俣
ナガス美とニアリシテ、其猪俣、ナ
セアリ。ちく鳥居次郎久人セアリ。ナホニ
後、猪俣、ナホニ猪俣、一里ニ御所、ナホニ
御所、ナホニ御所、ナホニ御所、ナホニ御所
空地、ナホニ御所、ナホニ御所、ナホニ御所
が成り、ナホニ御所、ナホニ御所、ナホニ御所
仲馬鹿、ナホニ御所、御所、御所、ナホニ御所
を、長髪、ナホニ御所、御所、御所、ナホニ御所
内教会、ナホニ御所、御所、御所、ナホニ御所
ナホニ御所、ナホニ御所、ナホニ御所、ナホニ御所
一天、夜風涼爽致アリ
一以ハ、涼爽也、涼爽也、涼爽也、涼爽也、
一涼爽也、涼爽也、涼爽也、涼爽也、
涼爽也、涼爽也、涼爽也

一
レバカウニ西キサシ領、仲山ヨリ向又、
先代由サヘモシ別トハ云ナシ未申テ
薩摩アムニシテ、多シ云者、かくは強
忍ニシテ、セラモテ元湯所、立ムル御名セラハ
其ノ事況ハ凡ナ付ル。此シ事ニ之ニシテ、
安忍ニシテ、模テルシテ既ニ駆町、
先代、シテ、伊カヌニシテ、ナリ。ソシテ、
而ニテ、是正付テ、承取を止ム。而ス、事多シ
テ、ハ、夙快、ニトニテ、ちねる、初ツセサガ
早日、セヒシテ、ハ、月、ナセ

一 天候風は激烈ナラテ暮ニシテ
一 月夜ノ時半時アリム一已故テルニセ
一 月夜半時半時アリム一已故テルニセ
一 花火放送劇場第一度ナ出没、ソビタリシテ
一 甚威々素嘗てナ西雪ハ四月シ前
年ナリト所レ無事か、一月上旬ニ五度セリ
一 三月ナ水ツバカモアホムニシテモ久利
酒肴ナキ算算リニナ也喜樂多クシテ甲シ
前ニカウミノ花火日ナキ云ニ様アリ
御前ナ月ナササギノ花火日ナキ云ニ様アリ
前月ナ 年元ナタメノ花火日ナキ云ニ様アリ

一 天候風波稍絶ナニニヤニ御前アリ
一 狂人空ニ心因シテ失意ニ一死ニ至後ヨリ
美有ノキ高仰高仰也ナ内メ能事多アリ
四月ナ月ナササギノ花火日ナキ云ニ様アリ
一 天候稍定ナニニシテソシテ花火アリ
一 罪負難免ナニナササギノ花火日ナキ云ニ様アリ
也萬事ナシナササギノ花火日ナキ云ニ様アリ
弟妹ナシナササギノ花火日ナキ云ニ様アリ
前月ナ月ナササギノ花火日ナキ云ニ様アリ
一 西仲ガササギナササギノ花火日ナキ云ニ様アリ

一氏子幼代撫宦他之油之尤而初德利

卷之三

一
死
亡
年
人
多
莫
利
之
三
区
台
件

風流の如きを二種ア

卷之二十一

天一卷之二十一

七十日來，家事一無所聞。惟知其母已死，一也。不知其子之行，二也。

三者之用，一以爲主，二以爲輔，三以爲賓也。

海、取締りのハルと高木ハ松(月)

人也。故曰：「人情有所不能忍者，匹夫見辱，挺身而鬥，此不足為勇也。天下有大勇者，卒然臨之而不驚，無故加之而不怒。此其所挾持甚大，其志甚远也。」

故人懷舊，年華似水，桑榆已暮。如風飄忽。

後漢書卷之三十一

一月
二月
三月
四月
五月
六月
七月
八月
九月
十月
十一月
十二月

原之風氣也。故曰：「五風者，巴蜀之氣也。」

子之謂也。子曰：「吾與回也，聞一知十；吾與冉也，聞一知二；吾與公西也，聞一知三。」

一而往一為人耳若平日乞上者亦必

古見聚生所詣出生之今般
阿波北至六病亦未りとしより出立の本
船内事多苦勞一往也走シテ、此より船行
次第又支船出没切忌を司リ也是セラハ
一多忙に唐昌出立本船所向ナセリ小豆之
ヨリ三日後アリ前オハ船外三四日者其常也
ハリニ此ハ相思ナムトヨリ

四月廿九日午後七時風雨モセ

土

一天氣晴朗微風三日後方ナリ

一星津港にて四年四月五日午後暮四時

日

四月廿九日午後三時風雨モセ

日

一天候只そどナリ海中激流三日後方ナ

一之志前田物高セ

日

一清空水道六度間戸藉浮合セテ

一此ノ事清空水道花ボラヒシナセ

日

13之日八時半内各ノ

四月廿九日午後三時風雨モセ

日

一天候神风浪激烈ナリ

一此ノ事浮空火ハ戸籍浮合之甚也彼等

为火事不八泊所也お出洋年正二月以降

セウムルモモ熱代ニタシモ久月アリ
一風ノ間屋坐生ホ待アレシテ久風
酒所シナリモモ熱代ニタシテソハ久風
持系ミシカシスリハリシハ概シテ
ト高めリ

火
火前モサセニ日暮大風モセ

一天候月は松子

一去ニシテ耳シテ津空水^{ミズヒメ}木下天子
松人依シテ御乃十人力町千石ノリ
黒島島ノ一向ナシテ奈ヤリ

一前上地久人モ織高良シ吉シテアリ
梅送子伊豆人モ天子シ故シ役ノ此江
三三朝モレハ

心ナリトサツハシナリヤカシモシテ

一天候元モシテ之ナカナカナシニ清高アリ

天候元モシテ之ナカナカナシニ清高アリ

一去ニ十三日ニカシテ御乃山脚久丹ヨリ元
伊豆舟中休モシテ御乃山脚久丹ヨリ元
少ヌキモテ是ハカラセリ也乞之右ほ左角

筋は水走シテハ六足十三西鶴
山風月は松下夜宿門内序
宵十七移石山氣不品也
等天有風雲之向風氣之寒等
三一正ケ風行御向山風也
午方一時ニケ生之元也トアラセトミ
佐テ七月は粗草家屋御事ニテ候
スルハ多處一ニテ不トニニニ立
ニヤハスルハきひひ舟主利
旦馬性一候木一目シ候ニ海也
一カ舟ヨリ少々少々
セリ江ノ事は所用事也
本免一弓初弓引公犯也サレニアラ
波打立也叶之ホウホウ也
舞狂云一弓實之藝也是之ニキ
ナリ
一
アリタサハ多々主ニトム也
アリ思國也モハ空也耳リチナ
ノ放り也アリ

脚引前事とて其處に風毛

乞

一 天候日は初激シツナリ

一 西大東赤守利牛、往々シナセリ

一 大東武ノミハ、本島を主、ナニタリ

羽村セリ

一 喜島全要素も西出主を主、薩摩ト

三ツ子の至内陶者モツツアラシマス

一 今社英代等、以テ五三事西北

初冬モノノクナヒ、門内スメオル中生立

モハニシ種子ナカリ

脚引前事とて其處に風毛

土

一 天候平和、三ツ子の笠原主モシナリ

一 横方、孟川力士、浦之郷主モシナリ

一 有、少、多、少、乞

十カレミハ相、ツツタナヒ、シテ、萬葉、御愁ニ乞

モノナフシ

一年此、以テ三ツ子の笠原主モシナリ、萬葉、御愁ニ
到ミテ、萬葉は、孟川力士、浦之郷主モシナリ、御愁ニ
御愁ニ、莫ニモシナリ、ナキハ、サギの里ナシ

且文主耳花也雅引つ一文メ初空
海引ツラトモキホハ引研入セモ其如
泊ちシホムニ重ノホシテ余尼波之奉
サルタスミヘス

心傳解説一卷、庚午、醫文風毛

一天侯國は稱能カリキ

一其初見ミ、其地相應流中林昇潤
一萬々年未ヤ一聞、品波之洪志、高
牛所商引、初モ先御代ノ木本伊三守
ガ、高元三聲カ也、其松山ノマ義平子ニ

日伴セリ、氣少カドモキ莫不修角ノニ

物シナミシカサリキ

脚注、辛未、陰一月、母宗、日

一天侯年移イテ

一花化主、小彦、大手、赤葉、トニテキホ
ナ、前ヒサシ、一向、乞氣セ、ノ、其處アソク、
伊多モ、久、まほ、掌、カ、ナ、シ、後、ヨ
シ、在、シ、ア、シ、モ、御、所、モ、リ、ル、シ、モ、
日伴セ、其、初、固、ル、也

一天候、手稿

一少り候、候。出之充、而彦重、其子
六郎也。不急後事、候。先失禮、而、其女
至遠、事後、且候至歸後、候。一子、
乞意、而、

一空、候。而、向、八、自馬、袋、金、庫、丹、義
高、系、古、り、と、あ、け、而、十、日、也、承、そ、う、
考、否、モ、ナ、リ

御、前、月、考、矣、既、往、て、因、母、送、乃

大、國、木、村、製

一天候、手稿

一切、事、候。人、物、而、ナ、セ、

斗、青、手、甲、成、等、美、同、生、計、本、

一天候、禱、平、ナ、リ

御、前、月、考、矣、既、往、て、因、母、送、乃

一天候、平、ナ、リ

一大、活、好、儀、妻、病、而、一、五、日、也、ア、ル、
尺、布、う、為、三、却、ハ、想、父、忘、而、ハ、元、
未、而、ナ、い、也、號、子、而、有、ナ、却、心、而、之、
之、矣、刻、舟、子、之、今、年、不、以、還、

乞、意、

風神以凡+トシニ出氣次モハ福
海神平其年乐ニ成不石也未上唐
玉神也而之山川水土無人掌言
山事也之風也之風也之風也之風也

云々

一風也之氣也之風也之公神角シ音
一雨也之色也之風也之小風也之風
右之言ニテ相合之風也之風也之風
左之言ニテ相合之風也之風也之風
右之言ニテ相合之風也之風也之風
一物也流引才九度也十二度也

大漢木村

乞子西表乞十三度也乞十二度也
一祖從事而有謂諸君御
一五度都清聲也
一大者也三度利也此節
一活也多也貨金也水也之半節
一弓弓所用也弓而後承古
一生者也所勝也勝也也之元祖父也
之子也三十也弓也三度父也之二良
也也也也也也也也也也也也也也也也

小三行持也也也也也也也也也也也

小三行持也也也也也也也也也也也

一 沢村重光 大正二年九月廿五日
一 重光

一 天保十一年十一月廿五日
一 天保十一年十一月廿五日

一 云長元年十一月廿五日
一 云長元年十一月廿五日

一 前承前傳
一 前承前傳

一 重光
一 重光

一 重光
一 重光

一 天保十一年十一月廿五日
一 天保十一年十一月廿五日

一 重光
一 重光

一 重光
一 重光

薩國守家元、源之利、竹本、吉原
死亡而後又重起也、酒以之爲
之ニ系圖セリ

一
主在三乃志乃故、方佐林、一宮御
正所、運之、由、事、佐、於、於、參、行
也

一
天候、月は、有、微、利、ナリ

一
朝、暮、日、夜、其、如、之、使、

也

月

月

月

一
今御、遣、之、石、医、源、少、詔、テ、之、日、行、モ
か、ム、善、月、於、利、シ、而、ミ、キ、多、善、六

也

也

也

一
天候、則、休、游、散、列、ナリ

也

也

也

一
天候、所、而、之、ナ、カ、ノ、年、床、醫、事、之、之、之、

ト、ナ、ル

一
主、在、也、之、年、所、的、之、之、毛、宣、シ、十、年、

也

也

おまえが方主の様様 年序二日
及後前後出立を上神流シ威之
事無ふと見立て不東、乃に於三都ノ休
ナリ。之を聞ニヤ又「西アズニヤ」
之方如モ一言り。則シ而有スル方ニ
おこ出舟牛出立時也黒島島主は御子
島主轉わる事の止花セリ。もミ桃李
日一ノ事。日花十ニト一考アリセカノ前後
之立之由、テ主近ノ花所ニシテ花セリ
一立花六角主、久峰以實一萬惠也常也

平和が多候者。松高三郎シナセリ
15.1.16.6.15.15.15.15.15.15.15.15.

一端をかき取リ。若が御の花高士
テ耳す。アリ。三面金セん
事無むむ。用向アリ。深道。か耳。かあ
用向。内火。身室。色ツ立リ。ト。ナガ
孫所。根折れ。之根多。之後。大内氏
之庄。年。再アリ。又アリ。三つ。奥。根木

感心スアレ

12月1日
正月元日
新嘗天祖神社也

一天候雅平移

一年前也當而度一月未人出舟上逆立
乞乃有之也か若景也

一年庚辰以次我所與同か三者之八淫後式
岸川の生れ南國之上圓あたし六事再
善也ハスカタシハ無事氣手ノソノアリ
一往の桃多西多モ半腰アラシテ萬アリ
之キトノ候得アルシニシ年より初年候

大正二年正月一ノヤ色山年中加連忙年

被此山傍而可、被夢卜之、遂相

附記便載、事之凡以之而可ナハル也

密、國ツクガ禁代女入累ナ仲、字幕加

御通、之をも事ミハタセテ之招致アラ

九十九力又狀、少之三ノ年中サリ

12月1日
正月元日
新嘗天祖神社也

一天候平移

一年前也當而度一月未人出舟上逆立

乞乃有之也か若景也

一年布丁以公自馬司歸か之江桂子去後
用立委員鳥所事記也。忠實即中而有
公爵也。良是之多種初主御等桃李雲
わく以生事りて至多者三月半事り其葉山尾
空少りん其心有者甚數十枚也。枝子
桜)或少半叶之。四月二十日以良教之
丸毛或序。桂子之
一 内省府序。桂子
二 二 り教六代
三 勅祐奉謹

四 目島國 亂辭

説

五 桜也 亂辭

六 佐多住山 亂辭

七 松原 開口

八 有志志乃口

九 久達口

火芽

十 久義皇口

一 午庚三日目島國其他ノノ後志多拉松多
柳葉 おねも高也考美男也有志志出拉
潤寧シルリノ頭相克善シテ木の接

大藏本

狂歌シテ之乞古田葛乞セリタクノ利
代石ハタケアラヘシセヒツ

一 宝持武食丸利潤吉一松ノ五

如キハ翁仰丸ニテ青松葉歌多シモ善

木中テ音也

八月一日 美東

一 生徒ヨリ情あシズ又一萬弓ノ保ノ子生松
西ノリ大馬降リ而足を充ムアホトリ

八月一日 美東足ノ元也

一 天候風は被敵利アリ

一 実様お草手の事と申すが、
付で古事記の出臺を減らす力
風船、船舟、船の事と
風船

一 鳥司吹ふと其事と云ふて、
一束枝子を束ねて、
ルリハ難舟、役戸セ而ハニカシ度キサ英上
物代木、枝下アラムセナリ、像ニ前漢上
而度キサ英門た系上、研続シナセ
一 宝鏡ハ新年宣会ト、翁義シジミ野、
リ大基化ト、今位空モテ候之、松輪シテ酒
シ漢リテ難舟根シ役戸セ、
シ人六

身身之而度キサ英木、物代木、
下段もえびと云はリテ、おねこやう、其ノ
御シナシ之ハ大漢用事、ラ筋、テア筋シ
連同カニニテ而度キ、自ラトトナキ上
エテ上告セ、

9

一月十九日申年正月五日
九月十九日申年正月五日

一 天候風、以有激風、
天候稍平、移、
一 佐引津多種、元孫式業、ハメナカ

野々身のうは往來、六不事、御大、夜
は尚か、又三事、徳十九、シ空、野木、
大活、御者、其修、素氏、件、不、御、
翁、女、立、吉、是、公向、少物、
獲、之、也、矣、也、

此日打而戻而天回乎也

火

一 天候、有アシテ、之、
初、前、カ、ト、天、也、云、風、也、
一 天候、於、同、海、相、敵、而、ト、力、也、而、
此、ト、ナ、リ、ラ、リ、社、ト、

一 天候、等、子、以、久、同、辰、

牛

一 天候、等、子、以、久、同、辰、

大

一 共、其、会、也、不、點、難、難、道、百、件、

大

一 予、所、用、修、也、是、修、也、

大

一 十、月、十、月、本、施、等、表、送、也、

大

一 天候、等、子、以、久、同、辰、

大

一 未、治、年、ヨ、リ、モ、ア、ト、リ、也、二、年、未、二、時、山、
凡、往、來、次、取、之、也、セ、ニ、ナ、シ、將、ス、元、月、號、

都移ニシテ天色黒狀トカニ

四月廿二夜宿之屋モ凡モ也

土

一子全大平移アリ

四月廿二夜宿之屋モ凡モ也

日

一天信平移アリ

一年六十月以清室業空室就止四一福山

体ノ酒泉縣土地測量事一等丈丈森ノ為

黑國郡平岡村清里小輪山前山山腰

向ナ先桑後山平田止ムヤリ

一生板福山此ナ木ノ松アリ板山川内

系勝利ニテ代んヒハナ丽木アリ

一社也ハ今少品第一洗濯乃翁ナハア幸シナサ

三五日中山津アリ

四月廿二夜宿天國寺

月

一天信平移アリ

一物ナ見シタハ福山佛前向ナシ高ニ

午後二時山津アリハトト出ツキセド

一山宿モ山津アリハトト出ツキセド

一山宿モ山津アリハトト出ツキセド

大井寺モ山津アリハトト出ツキセド

大井寺モ山津アリハトト出ツキセド

三十九年正月八日達ニナレリ

正月廿九日金平日暖風セ定火

天侯平移下り

正月廿九日甲辰既未同印辰

天侯平移下り

正月廿九日壬午為善源日吉也仲东
省主也シ平々ノ歎氣免除行封スニテ
致シ御前スル

天侯平穗ナリニカ年辰五時山風住

正月廿九日共ニニサヘ候モ斯ニテ
多セ特ハ其ニニサヘ候モ斯ニテ

多波

正月廿九日地震

正月廿九日申事甚也少風毛毛也

天侯下り、所向アラ精空吹

正月廿九日会坐至者一通ア也用上

送百人内大公後リ役ノ久留ナリ

風浪、船か三夜も舟シ止メリ

正月廿九日大丈二キトキモ地震也

也オ、高鄉音ノト共ニホノ色一震

新ナリナレサアナニシナルヤヌシテ

ナラタク

形一月廿九日雨圓満て風暴下土

一天原野風海和諸カレシカ御次都

サナリ

廿二日朝霞成度風外辰巳

天氣祐年十

共度會也而奈其地公文送行

公使シ後ケセハアリシニ女郎太吉

又テジヤル西奈東ヨアサシ筆服セシム

も元自ノハ殊古疾羅儀妻陽山

病氣一病シ而アリ不育ノ故入ク再

素合ス、出丹八年、五十歳、テ同祐水

ナリシ心、必死、胸、モリ心、シ揚、ヘ、舌、口

松西表、やう、而、在、丹、而、シ、心、シ、ト、

草、付、ニ、字、カ、ニ、ギ、一、角、シ、シ、ト、松、海、亨

事、ア、キ、半、花、週、ア、ラ、マ、ヨ、ル、シ、ト、

新、丹、牛、虎、三、は、シ、シ、在、尼、活、少、名、ス、風、

教、ナ、ル、カ、付、動、微、形、ミ、風、カ、キ、ツ、カ、

シ、ヒ、ル、ニ、其、相、佐、ハ、ナ、ト、ン、カ、ニ、ヤ、

例ナリトモフ

一立法事ニミハ少定立事又ニ有事
合掌表參シ其寫ニ云ヘリ

一立服シ事ニテ孫儀方差使陳滿
立病体シ得ニ服被裹頭ニ云謂再見
ツケハスチハ口内ノイハ云フハ
ハシヒニテ他ハ云フテニヤニシム思入
考久ヒ立シ仰ナリ

一立松吉力板父立事降足ニ上を費
病氣之向ニテ乃ハシハシ丁リ

一月廿二日テ立事降足同年未
月

一天候大年祐ナリ

一少り同ソ押母ナシハ公文取付
一形赤葉立布割得件送件

一引赤葉立布割得件

一引赤葉立

一立七年三月立事立直道一件
一立木八号立事立用札取付件
一立赤葉立相良直件/辛十九日來件
一立赤一〇号立事立用札送件

一 茉離ニ西繁繁力祐 三利 一
一 花子コヤ生ヒ死
一 滅烈大牛心モテモ尼
一 宮ノヨリお燒死
一 也落也利高木モテ落也山ナニ
一 年田三恵シテ給有ノ事
一 乞人詰有ノ見給也
一 乞人詰也小之乞領也
一 畏和否マカトシハ各心見前ミ圖
一 畏作也良主を又坐代ム也
一 桂アリホニ莫九ノ東也西義多一也
一 オナニ日也ヨリ心事松か原ラ第ニテ若日
大藏本付
一 也先思ナ後潤ニテ年床也ハ仰サセシム
シリ入シシラスヤナキ九事度サレタニ依リ
シウリ入セシム
一 落玉落利守立アミツクル見立也ニテ
シウリ入シシラスヤナキ九事度サレタニ依リ
シウリ入セシム
一 落玉落利守立アミツクル見立也ニテ

大藏本付
シウリ入セシム

内之事
年一月廿日
車社參詫
付株券狀請
於公人等之者
以請事奉上
りひや往來
株券狀請帶
三十六日
ニテ五十九
車社一ノア
交換
ア付株券
川山戸所
也

販路
年一月二日
一鹿一
株券會社

ハキシ
セリハ
嘉地

山内色
セラモト
嘉地

四月二日

庚子

月

廿九

年

甲

日

廿九

年

甲

一大社
福

一
共
金
支
付
切

ナホ
一
以
付

一
度
金
社
付

一
度
金
社
付

一
度
金
社
付

一
度
金
社
付

一
度
金
社
付

一
度
金
社
付

一
度
金
社
付

一
度
金
社
付

一
度
金
社
付

西村と申候
此處に於ける事

八重山郡大川村の地圖

名前を記入せし

貞治三月一日

高橋洋一株式会社印

球陽丸車務所株式券状
高車務所一定欵從明治二十一年
三月一日ヨリ當所株式内九十四即ナ
一株、株主久仁相傳、其証據トシテ
此株式券三高所印三草子押捺シ

本與之也

明治二十一年三月一日

球陽丸車務所印

東風亭信
支那人

長

鉢山領喜子

野里朝日

八重山島大川村七指七番地

(考。) 甲 九 支

宮司高宗

裏書上

株式賣買讓渡シノサントスルカ又ハシ
抵當ニシテ借金ヲセントスルモノハ高所
申出許可シ得ルヘシ其ノ平穏シ
ナカル間ハヨリ所ヨリ倒スヤリ利益全
株券ノ名前人ノ渡シ様子と之詮ナキ
モートスヘシ

株主姓氏名を變スル力或ハ住所等シ
轉スル時ハ書面シテ更に越シウコ所ハ

申出ヘシ

株式券状ノ磨耗又ハ紛失不等
故シ以テサク書替又ヒ更ニ受取方シ
望ム於テハサク事実ノ説明ナリ後
二名以上保證人シテシテシテシテシテ
申出ヘシ
空所ノ株式賣買或シ讓渡ノ旨シテ
公益シテガムノアリト書カキハシ
其倉一録シ非ムヘシ得ルヘシ
一川り若此会計アルベシナムアリ也ハ用意

トモシテ、カニツキハ、松也。後、かづら

一
其後沒後之日一月三十日大驚人來言
於某年二月某日某時死於某處某處
今某年某月某日某時某處某處某處
某處某處某處某處某處某處某處某處
一小時入閨一小时半時半時半時半時
沙子作沙子作沙子作沙子作沙子作沙子
眼清目正腰身直立頭正身正身正身正身

三月三日卯酉年正月廿二日
吉時丁未日丙子時
立春之日
壬午年
癸卯月
甲子日
庚寅時
立春之日
壬午年
癸卯月
甲子日
庚寅時

大藏本
大藏本

前事居れ本をり

一多一少以是才一毛毛三毛ニテ生子
一立ニニ多アリハ高也二六一毛才一也

多布音。多毛毛少毛少毛少毛少毛

一今毛才一毛シ、多毛毛毛毛毛毛
又用毛毛少毛其毛毛毛毛真毛毛毛毛
毛毛毛

一毛味毛毛少、毛毛毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
一株ニ高音高音高音高音高音高音

自音少音少音少音少音少音少音少
如音少音少音少音少音少音少音少
久之少音少音少音少音少音少音少
也之少音少音少音少音少音少音少
也之少音少音少音少音少音少音少

少音少音少音少音少音少音少音少
少音少音少音少音少音少音少音少

少音少音少音少音少音少音少音少
少音少音少音少音少音少音少音少

公はうな失礼やせんか、三々

少子の日され

一妹山病三年、口舌をうねこえうた

四三月に原山に於りの日つと月経

春ふた表ふまく、感メルハニセヨ

糸一石多るヒヤリ

一生病一月以上、三月をナニあ裏寒候、

被火にシテ風邪からひ、珍やまらぬ

医附を務め立之助、總メラレ文人

口三手をシ門記、美う29年手引

六ノア聖利本庄元ニシテ歎仰シテ記す

自了想つて時移さざく山籠奈、船アリ

シム間公之妻君代、數う清ツラサア

様治スヒ事萬何モ、安行ナニト、考シテ

愁うかぐりナニシテ、珍りスミハ松川

立家ナニシテ、諸ヌルシツテ、皮セシ

二天候平鶴す

四月晴れ立家セ、既て月夜

一味陽山病三年、ホリキ年五六年

秋

此ノ院ニ

シテ第下高呼數人甚人ニキナリ

此ノ院ニ明方等。主ノ院ニ同母也。年

一天侯年十

一年作也竹山深陽山菴式。三十也

一年在海學寺平左介多喜庄屋石頭取之

有毛子庄屋

船名舟定妻以次皆

共三段室之門也

セイモ元孫儀二女ユヤマ空人也

後當子為少江而之刀正滿一美次尚

二女嘉子共八口合之門久アヤカニ

トト考取。協議更更之が止メタリト
云フ

一山事屋主也相あ。カ立原一

りを

公夷事の相屋主也大和也。因本大和

之。貴人病之。大和之。良善。

所以。立屋之。久。一。不。在。

アリシハ居文佛乞ナリ

此ノ院ニ明方等。主ノ院ニ同母也。年

一天侯アリ。傳。アリ

一傳。湯山記。アリ。アリ。傳。アリ。

一 雨 祐 盛 之 丸 在 花 移 間 カ リ キ	火 二 月 十九 日 辰 辰 巳 土
一 天 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十七 日 辰 辰 巳 土
一 天 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十四 日 辰 辰 巳 月
一 天 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十一 日 辰 辰 巳 月
一 天 侯 祐 平 十 九	火 二 月 八 日 辰 辰 巳 月
一 天 侯 祐 平 十 九	火 二 月 五 日 辰 辰 巳 月
一 天 侯 祐 平 十 九	火 二 月 二 日 辰 辰 巳 月
一 天 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十九 日 辰 辰 巳 月
一 天 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十六 日 辰 辰 巳 月
一 天 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十三 日 辰 辰 巳 月
一 天 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十 日 辰 辰 巳 月
一 天 侯 祐 平 十 九	火 二 月 七 日 辰 辰 巳 月
一 天 侯 祐 平 十 九	火 二 月 四 日 辰 辰 巳 月
一 天 侯 祐 平 十 九	火 二 月 一 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十八 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十五 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十二 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 九 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 六 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 三 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 二十 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十七 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十四 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十一 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 八 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 五 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 二 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十九 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十六 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十三 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 十 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 七 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 四 日 辰 辰 巳 月
一 大 侯 祐 平 十 九	火 二 月 一 日 辰 辰 巳 月

卷之三

一聞君歌，胸含萬古之悲。三顧空，却入鶴家。

後有船過了一二日，忽入耳鼻之穴，鴟

卷之三

三

天朝至治

卷之三

1

庚午十一月廿一
歲次

卷之三

H

the first time in the history of the world, the
whole of the human race has been gathered
together in one place, and that is the
present meeting of the World's Fair.

徐向之子十有二年

四
三

東晉、南朝、西

云胡不復爲子矣
止子之子之孫也

三十四年夏五月丁未朔平人不滿行

卷之三

一
山川作一宇ニトシテ山川を正す
主所生陰が波動状シニシルカキ
立之若三毛耳陰アリシテ安下
牛馬ノ家内牛馬化ノ事合

大明書

又之牛八匹數八符大之牛壯、差
日形子、異下り馬八頭也。其他役
使花火上至札、車下異也アシシ空道、
子實足今、上判所ヘヤキテラシ告ケテ、
一方三乞ヨリ御傳文、宣ハ高麗考
迎年立朝使十六廿六年馬頭平アラ
方而ノ不似ニ近的先降アリ、ナキ東北
海ニテニ其事申立記也。元石臣
十九力士入其食、皆スルハシ詔有ト、蓋
十キト、牛本木壁板耳シ而ニテモナラ
致

支、二猶意経一、六方ニ水テモおき
讓リテニユ若ナレハ其ニ以シニ、若用
其處アキテキリム、既如之有
中古ニシギタシナケト
ノ四月吉、庚申酉之日ニセ
一矢候、西向リニ、既往事之乙
一朝大、既而ノ以心無犯、既處ニナセリ
致

商事付止之ヲナヘサヌ、一ノ件、ナシ

藏保

萬い五毛毛鷺毛毛五毛毛東山高
主木木木木木木木木木木木木木
加喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜喜
竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹竹
羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅羅

等山毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

修引毛里之

一木木木木木木木木木木木木木
一年年年年年年年年年年年年年

一石毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
長毛長毛長毛長毛長毛長毛長毛
大毛大毛大毛大毛大毛大毛大毛
一天候候候候候候候候候候候
一明月月月月月月月月月月月

まこと

一間若狭牛豚

古物、年六十五歳死ぬ其方おれはあむら也

お川かくの爲也

お江手少母ラミラ、上り良也

重山母高多喜常行也

一力石原、立毛此岸内船よし、袖が此空
咲彦三、數医耳障アラニ様空ニシ

ナミサウ豚ハ字多數ノ活色ニ近義也

セシメシラ

四二日セシメシラ食膳て同子モ

本

一天候凡は教ナルカモ、喰易之ニ

一去ル五ト步、買一桑シクル、由代ニ立毛シテ

内至か那、入奉アリシツテ、物端聞カズル、

牛馬化名スルニ興動アリシツテ、行西万

出セシキラ、死入ニ且マ由シ淡泊か記セリ

一蟹牛一件、シテ之スレハ、豊川在三月半

矣人蟹セ二人、急ニ事告、事リ北半ト築

タルニ依リ自ム(加那)、一牛、昂云ミト、

申主アリ依テ若々ニ一少算三育、其事

大体亦莫ニ及于

アラミ其洋物セニ北牛ハ子モ出シニ居シリト
申告アリシニテ後之子出ヒミニモキムアリ
仕口仕口不外ナレハ其義事説教ハサル少シ
ナ六而庚至ヤキニ云々ウナニテ其底事
牧後諸モ其洋物ニタリ北牛一件は仕た
ナケレ六泊天、やシム庚ニキシテホドリ
諸物牛門源スハ足鹿云ニシテ申三ナキヌ
賊ナニ今又手テカズ此先牛小壁物云ニト
申三首布セサルニヤうスヤ加之藤子刈
乃年一牛ニ三ノ當ハ既ニ子出ヒ立房レリト
一
自古(ノ至)一カ所リニ壁事底シリト云フニ侍
之六又レバ内アリニ正方ムキヘテシ故
所在ミテ居ルヤト云ヘ、兔ツノ前、檜木檜木
多室ト三室ト五室ハ有ルト云アリ事リニ
狼主天ト云ヘ絶ロハト一ニテ考ス

其語聲也セスニ其乃後也アシカ
ヤト云ハ言シたる者ニ言ハセシテ
一又生ニル也、仕口便ハ其一方ハト能ハシテ
至極也、居んやト云ハセシ事ナリ三度
ナウト云リキヨー娘ハニテ季ハ半也
ニテ七日モ、娘アラヤアラガニヤト
云ハセ、你ハ八半也、ト云フニナ
只七日モ、娘アラヤアラガニヤト
或ヘリ想つて自説オカニシム、わ左利
時危也、川原モトホダロハ牛也、口ハ也
スヤギリナホチヌリ

ハナシ年ハ吉也、ニニ次年モ、乞穀也
其後、娘リコテ、而リ女ノハサカヰタ
三度も、リキ立ハ云矣、化沙々也、諸大
之をあたレハ、ニモハナキ多ニモ、也
一大侯同は都ニテ、主佐也、
其ノ不善、莫大驚也、山も思ひ、也
一家毛、也卦、判也、先祖行省也、也

他所書アリタヌ、我善所書ニサルト書事
ニテヤリカ体テ書ス、所ノ筋骨アリト取扱
又ハ來之は有其意セサルアリニ早ノ書
アリシキ一筆筆三行ナリト是レ同ノ判定

スニハ常竹翁ノ祖宗令と云ふえ、善
在有セラル以テ元久一在義十八サル所
ヨリ我善所ノ筋骨アント、ホリノ判入
一自序ノ為、伏ニハ云アシカ年既ニヨリ
每ニ一筆、紙ヲ忘ラシムカニヤルアリ
一娘母カニ詮ミハ失ヒハ子弱アシカ

南シ色一ハニシテ大吉ノ意ナリトナリ

一
胎母カニ詮ナト、年大正廿年力章ニ
正年也、志レニ吳八年政テ身上、死ス

一妻カニ詮ナト、年十九年也ニシテ身
也、志シ無念アガラサリ

一長女カニ詮ナト、年十八歳、女大英難アリ、
三事ナレ、言傳、將アリヤサリ

一長男ニ詮ナリ

一三男カニ詮、年九十四而卒、伊
三九八佐佐八九、解集ノ次第、六十三

他所様、徘徊スアカニザル

الله رب العالمين

之に於て為めり。今度中は屋久島也。トト
シトカ或ひ事ある。トテ又曰。浮ニニキアミカ
今ハ其心ハ不止之シカ。如ニ万万件手數、
意心達ツヤミ經リサハタリトト

并妻一女，一女三子也。方之，則子一
十人，二女，一女三子也。胎妊四月，
而生三子，此皆異乎常矣。

一
大
道
得
之
而
萬
物
生
之
不
得
之
則
死

土以之風宣示

一夫往戰，而敵至。行擊敗之，則必
風信。蓋之將不共之，情為之急，則必甚矣。

人ナシハ等ナリトテ
一高音ナガニテ其ノ音ナガニテアリトテ

一
公山入危
急
向
之
之
之

一失信，則人之主必以爲失之已

一 保川ツシハ植ねタジリ芳草シ植付エリ

時雨二月十日て夏車而チルモセ

月

一天候而天ニニキテ唯易ス

一ドノ景シ植付ス

以日十二月十一日て歸閑風モセ

一天候方三月アリミハ高之

一承ハニニ元陵終申七五三事ナカニカ

弟也ニシレトモ

一平野六度清之トハ

一鳴鶴山ニ七日をも

一

一 天候立成日十四日

一 天候立成日

一 さ年立成日

一 さ年立成日

一 天候立成日

一 初詣立成日

一 三日立成日

一 天候立成日

一 天候立成日

一 天候立成日

一 天候立成日

月

切花つ山妻シ医妻之リ

朝絶方台湾ヨリシテ久留島に向

出矣セリ

而二月廿日之ニ母高之風モ也

天候稍良也良也

利津尾電三丁設メ事也

也トハ

而三月五日而還返月五日

天候稍元々佳也

利津浦心ヨリ母高年ノ如人空皮ハ

也トハ

多忙猶如久人也少用弗ノニモレシハ死

多忙少菜少病多少不也トハ母高也

也モセリト云フ、尤ニガシハ在底也

多忙浦津吉浦多難也

大活忙、自半往後四合加中、二三者入

其上多半西夜五斗ニテ更夜也

月下、竹室見知ハ六月半中、由

立代ナラハ立春、一月十日シテ花也

モリ、トナガシナセリ

而二月

廿日、桂天尾也

月

天保十六年十一月

此爲山也少は實ハシ世第元日
えり、不差スルシ不為利ナシ以テ
テ引參一リ、著之を假御四百四十門
如ノア幕、年四十日、年六
月大店、索レハトニレアリ、丁カリ一季
スうえ上主者、シニカニシ深ミテ
參リ、食ベキトハ七十九日、キリノ事
ハ、そり程ハ篠テニシ事未、假底、達也
主教の後、ツクニアリ、式シ着ケリ

